

< もくじ >	
1. 2019年 年頭の辞	1
2. 第5回研究会合同イベント（シニアのICT活用研究会主催）開催のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2-3
4. 各研究会の概要報告	3-4

1. 2019年 年頭の辞

明けましておめでとうございます。平成最後の元旦を皆さまは、どのようにお迎えになりましたか。

平成という時代を象徴する出来事としては、社会の分断化の進行、自然災害の多さとその被害の甚大さ、オウム真理教信者による地下鉄サリン事件をあげることができます。経済成長のおかげで、長い間、日本人の多くは、「貧困」という言葉を忘れていました。しかし、気が付いてみると、ワーキングプア、ネットカフェ難民、貧困女子、下流老人などの言葉が氾濫するようになりました。貧困の進行は、自分より得をしていると思われる者に対する怨念につながります。生活保護受給者へのバッシングや嫌中・嫌韓感情の高まりは、井手英策・慶應義塾大学教授が指摘するように「弱者が弱者の足を引っ張る」状態を示しています。何とかして井手教授が提唱する「頼り合える社会」を実現したいものです。



第二は、自然災害による被害の大きさです。火山列島であり、台風の通り道に位置する日本では、昔から自然災害が多発しましたが、人びとは自然と共存して生きてきたのです。平成時代の最大の災害は、言うまでもなく東日本大震災とそれによる福島原子力発電所事故です。とりわけ原発事故は、原子力の平和利用への幻想を打ち砕くものでした。原発は原爆と一続きであることを私たちは忘れていたのです。復興・復旧が説かれるにもかかわらず、故郷を奪われた人びとの生活は、今なお元に戻ってはいません。自然に逆らうことの恐ろしさと愚かさを原発事故は物語っているようです。もう一度、自然と共に生きる道をさぐるべきではないでしょうか。

第三は、地下鉄サリン事件です。テロは遠い国の出来事と思っていた私たちにとって、テロリストは身近にいるというのは、大きな衝撃でした。さらに偏差値の高い大学で学んだ頭の良い若者たちが、あまり学歴の高くない教祖に惹かれていったのも不可解でした。それ程、彼らは日本社会の閉塞状況に絶望していたのかもしれませんが、平成のうちにけりをつけたいという思惑から、あっけなく幹部たちが処刑されてしまいました。彼らが何をめざして入信したのか、その意図を知るチャンスが失われてしまったのは、まことに残念です。

あまり良くないことばかりが続いた平成時代ですが、新しい時代が、少しでも明るい時代になることを心より願っております。本年もシニア社会学会をよろしくお願いいたします。

2019年元旦

一般社団法人シニア社会学会
会長 袖井孝子

2. 第5回研究会合同イベント「人生100年時代を豊かに生きるためのICTの可能性～シニアの活用を支えるサポーターの役割とは?～」開催のお知らせ

高齢期は、虚弱化、家族の介護など様々な理由で社会との様々なつながりが縮小していく時期といえます。近年ではつながりを失うことが喫煙よりも健康度を下げることが指摘されています。人生100年時代ともいわれる長い時間、いかにつながりを維持していくかが重要な課題といえます。

「シニアのICT活用研究会」（澤岡座長）が担当する第5回研究会合同イベントでは、豊かに歳を重ねる為にシニアにも普及著しいICT（インターネットやモバイルなど）がもつ可能性を論じつつ、総務省の推進するICT活用推進委員を一つの視点に、これを支えるサポーターの役割を考えます。

◆基調講演 「(仮)人生100年時代を豊かにするICT活用推進委員」
犬童周作（総務省情報流通振興課 課長）

◆先行事例紹介

◆司会 澤岡詩野（当学会理事・ダイヤ高齢社会研究財団）

1) 日 時：2019年3月16日（土）14：00～16：00（受付は13：30から）

2) 会 場：東京家政学院大学三番町校舎1214室（市ヶ谷駅徒歩8分）

3) 参加費：1000円（学生：500円）

※シンポジウム終了後に1時間程度茶話会（無料）を予定しております。

4) 申込方法：3月8日（金）までに、お名前、連絡先、茶話会への参加の有無を
e-mail・電話・FAXでシニア社会学会事務局までお申込みください。

事務局（月・水・金）：電話・FAX 03-5778-4728 e-mail：jaas@circus.ocn.ne.jp

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第53回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2019年1月21日（月） 18：00～20：00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室

3) 報告者：小林秀行（明治大学専任講師）

4) テーマ：「日本の災害復興は何を見て、何を見なかったのか

～『復興とは何かを考える連続ワークショップ』の議論から」

5) 参加費：当分の間頂戴しません。

※ 問い合わせは、福原（fukuhara@jaas.jp）までお願いいたします。

(2) 第115回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2019年1月23日（水） 18：00～20：00

2) 報告者：向 隆志（新宿区福祉部高齢者支援課長）

3) テーマ：「新宿区の地域包括ケアシステム構築に向けた挑戦」

4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ ご質問がございましたら、阿部（旧姓佐藤）まで 090-4436-6853

(3) 第62回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2019年1月24日（木） 15：00～18：00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：「年齢効果の社会システム」見直しについて考える

4) 発表者：安田 和紘（研究会コーディネーター）

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）迄お願い致します。

(4) 第9回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2019年2月22日（金）

2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内、日本記者クラブ9Fラウンジ

3) テーマ：「老後の目標は『人生の仕舞い方』『人生の仕上げ方』、あなたは？」

4) 参加費：500円

※ お問い合わせは、中村 (nakamura@jass.jp) 迄お願い致します。

(5) 第29回「シニアのICT活用」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2019年3月8日(金) 14:00~16:00

2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団会議室

新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階 <http://dia.or.jp/access>

3) 話題提起者：茨木 裕子(早稲田大学人間科学部通信教育課程 教育コーチ)

4) テーマ「中高年者の社会参加活動と情報活用について」(仮)

5) 参加費：500円

※ 参加のご連絡は、前日までに森 (moriyasu@ied.co.jp) までご連絡ください。

なお、1月と2月はお休みです。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第61回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2018年12月20日(木) 15:00~17:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：ガルブレイス著『ゆたかな社会』を読んで「年齢効果」を考える

4) 発表者：大下 勝巳

大下さんは、「年齢効果」を考える手掛かりになったのが、当著書第11章の「依存効果」であり、欲望は生産に依存する。欲望は欲望を満足させる過程に依存する。年齢(の依存)効果は、時代や世代に関係なく、人があらゆる時代を通じて共通にライフステージとの関連で加齢と共に変化して行く部分を表す。日本の超高齢社会は、社会システムの見直しが必要であり、「年齢効果」として言えることは、世界に例を見ない超高齢社会における『必要』によっておこる需要と生産であると述べられた。

濱口座長はコメントとして、ガルブレイス著『ゆたかな社会』の初版は1958年に発行された。アメリカは豊かな社会の真ただ中であつたが、アメリカ経済はこれでいいのかと見直しの時代でもあつた。消費中心の時代へ移つた。当著書がその時代に出たことにより、より輝いていたと言われた。そして、「年齢効果」は、老いの問題であり、成長の問題ではなく、成熟の問題である。今後一番引付けるテーマは、「A1」である。人間は成長だけでなく、成熟もある。年齢を取ると、曖昧さを身につけることが出来る。「A1対人間」について言うと、「成長と成熟」の対比ではないだろうかと述べられた。(島村記)

(2) 第28回「シニアのICT活用研究会」の報告

1) 日 時：2018年12月21日(金) 14:00~16:00

2) 場 所：ダイヤ高齢社会研究財団会議室

3) 報告者：八巻 睦子(シニア社会学会会員/ALSOK)

4) テーマ「ICTが支えるシニア向け安全安心サービス
～セキュリティ会社の事例を中心に～」

日本で警備業が始まったのは東京オリンピックが契機であつたこと、町の中でよく見かけるガードマンのお仕事など、警備業界の全体像について、まずはお話いただきました。

次いで、介護におけるICTの活用は、ロボットなどの活用が主軸で、将来的な介護人材の不足に備えて期待されているということでした。現場では介護の記録と入居者の状態確認の負担が大きく、ICT化の余地が大きいということです。フロアからは、介護の記録のICT化について活発な意見が交わされました。

また、施設介護のレクリエーションへのロボットの活用、在宅高齢者では会話型のコミュニケーションロボットの活用などが進められているということです。

認知症高齢者を地域で見守り・支えるツールとしてサービスが増えているビーコンを利用した見守りタグでは、サービスシステムが異なるとタグからの電波を受信できないこともあるということでした。 (森 記)

なお、1月と2月はお休みです。

(3) 第8回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年1月11日（金）
- 2) 場 所： 内幸町 日本プレスセンター内、日本記者クラブ9Fラウンジ
- 3) テーマ：「シニア期における新しい関係性作り、及びネットワーク作り」
- 4) 参加者：7名 三橋、若井、庄司、中村、小平、寺本、皆川（敬称略）
（80歳目前から50代まで、女子2名 男子5名）

「人生100年」時代を生きる高齢者が、老後は「余生」と考えて、新しい人間関係の構築やネットワーク作りなどには興味を持たない人もいれば、老後は「後半生」と位置付け「頼れるのは自分だけだ」と頭をリセットして過去と決別し、大学院進学などで積極的に勉学や新しい友達・ネットワーク作りに励むシニアが急増中だ。参加者の本音トークの一部を要約してみるとー。

「自分の新しい“居場所”を確保したくて、大学院に入った。これなら現役の学生を任せられるだろうと専攻したのが哲学、懸命に勉強して『ああ、意味が分かった』という喜び、この難題を征服した時の喜びこそ居場所だと感じている」。まだ大学院を卒業せずに哲学の勉強に励む長老の男性だ。シニア世代の新しいネットワーク作りの神髄とは、「私という人間の個性を分かってくれる人と付き合いたい。そういう人を大切にしている」とは50代の女性。同時に、「相手からも『久しぶりに会わない?!』と言って貰えるような人間になりたい」とも。

60代の男性は、定年の3年前に『50歳からの定年準備』という本を読み、その中で特に「リタイア後の人間(友人)関係の構築の大切さ」の項に強い関心を持った。会社を卒業すれば、会社時代に付き合いのあった人たちも、徐々に疎遠になっていく。その「対策」としての指南は、「何でもいい、自分が興味を持って長続きしそうなコミュニティに勇気を出して参加する」とある。早速、定年の1、2年前から地元の町内会の役員を引き受けたのを皮切りに、小・中学校の同窓会や同期会の幹事、さらには高校野球部OB会の役員にも就任と、とにかく声が掛ければ「何でも引き受けてみよう!」を実践。そこで出会った仲間たちとは、新しく楽しい交遊関係の構築に繋がっていく。定年の翌年から大学院に通うなどの幅広い体験で得たのは、高齢者にありがちな「過去の武勇伝、自慢話の類」はご法度であり、年齢を重ねる程に『過去は語らず、今を語れ!』という言葉。彼は、それを新たな「座右の銘」にしている。

この座右の銘には賛同者が多く、東日本大震災、原発災害をきっかけに福島県の現地へ出向き、被災者支援に励んでいる50代の男性も「同窓会にはいく気がしない。過去の自慢話が嫌だ」と。避難先である東京で暮らす被災者支援のため、地元・中央区のシニアセンターに集う高齢者仲間に声を掛けボランティア組織「中央区内の被災避難者を支援するシニアの会」を震災翌年の2012年春に立ち上げた70代の男性。地元月島名物のもんじゃ焼きを、仲良く焼いて食べながら避難者と市民が交流できる憩いの場を隔月に1回開催し続け、途中から対象避難者を区内から都全体に広げて7年経つ。今年1月13日の開催で、通算37回目になった。東京には依然4719人の被災避難者が住み、うち原発災害の福島県からの人は3831人を数える（昨年11月12日、復興庁発表）。

※この月例会の詳細は、「ライフプロデュース」研究会のブログをご覧ください。 (皆川記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>